

会 議 録

1 会議名

令和元年度第8回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について（公開）

(2) 地域協議会だよりの配布方法について（公開）

3 開催日時

令和2年1月28日（火）午後6時35分から午後7時50分まで

4 開催場所

高土地区公民館 2階 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・ 委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、金子和博、小林トシ子、日向こずえ、横川英男、横山とも子（欠席5人）

・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

・ 会議の開会を宣言

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

・ 挨拶

【田中主事】

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

会議録の確認：横川委員

次第 3 議題「(1) 令和 2 年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について」に入る。事務局より本日の進め方について説明を求める。

【田中主事】

・資料 1、資料 2、参考資料 1、参考資料 2 に基づき説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。初めに資料 1 の採択方針について協議を行う。

【金子委員】

土日を利用して検討を重ね、月曜日に提出する団体もあると思う。そのため、募集期間は長ければ長いほどよいと思っている。自分としては締切候補日のいずれかであれば、4月27日(月)がよいと思う。

【横川委員】

資料 2 記載の締切候補日のいずれかで考えた場合、事務局としてはどちらがよいか。

【田中主事】

中部まちづくりセンターが所管する 5 区のうち、高士区以外は締切日が決定しており、4月24日(金)を締切日としている。提案を予定している団体は、締切日までに 1 度は連絡があり、提案書の修正は、締切後にもやりとりをしていることもあるため、締切日を過ぎたから修正ができないということではない。

【横川委員】

事務局的にもどちらでも大丈夫ということであれば、他区と同じ 24 日(金)とはせず、高士区のみ 27 日(月)とすることも 1 つの方法だと思う、手直し等は後からでも可能なため、それほど問題はない。

【飯野会長】

他に意見がなければ募集期間を 4 月 1 日(水)から 4 月 27 日(月)としてよいか。

(よしの声)

次に、配点についてである。これまで高士区では、公益性と参加性に傾斜配点をしてきた。配点について意見を求める。

【横川委員】

配点については、これまでも同様のルールで採点してきたため、変更する必要はないと思う。もし変更するのであれば、次期委員が考えていくべきだと思う。今までのやり方をそのまま残しておくことが1番よい方法だと思う。

【飯野会長】

他に意見はあるか。

(発言なし)

配点については、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に、ヒアリングについてである。今期は、提案のあった全事業についてヒアリングを実施してきた。意見を求める。

【横川委員】

今までどおり、全事業をヒアリングしたほうがよい。

【飯野会長】

他に意見はあるか。

(発言なし)

では、ヒアリングについても、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に、追加募集についてである。これまで高土区では、配分残額がある場合は追加募集を行ってきた。しかし、令和元年度については、追加募集を実施しないことを前提としてスタートしたと記憶している。

【田中主事】

補足する。追加募集について、高土区では配分額の残額があった場合、金額や提案状況に応じて、当初募集の審査後に取り扱いを協議し、実施の有無を決定してきた。今年度は審査の結果、不用額がないため、追加募集の協議をしていない。

【飯野会長】

では、提案状況に応じて追加募集を実施してはどうか。少額で追加募集を実施しても意味はないが、それなりの残額がある場合には追加募集を実施してもよいと思うがよいか。

(よしの声)

次に、その他の特定事業への加点措置などについてである。今までは加点措置をしてこなかった。特定事業としては、新たに募集テーマとして設定した「集まれ！子育て世代」と「人を呼べる新たなまつり」の2つだと思う。

【日向委員】

今期の地域協議会も4年目になるが、提案される事業が固定化していると思う。その中で、新しい募集テーマは子育て世代の活動を応援してもらえるためよいと思う。特定事業の提案があった場合は加点措置をしてほしいと考えている。

【横川委員】

募集テーマに関連する事業に対して、提案があれば加点措置をすることはよいと思う。しかし、募集テーマに適合する事業が高評価となり上位にきた場合、加点対象とするかについては問題があるように思う。その場合は、状況を見て加点しないとするか、または強制的に加点するかが問題となる。提案する団体等はすごく考えて提案してくると思う。全ての事業に対して臨機応変に対応するか、または加点措置をするかの判断が難しい。

【横山委員】

自分は加点措置すべきと考える。新しく募集テーマとして掲げた2つのテーマは、高土区に最も必要な事業である。過剰とまではいかなくとも、多少盛り上げるために加点措置等があれば声を出すきっかけになると思う。それが最終的に高順位になったとしても下位の事業の評価が下がることにはならないと思う。加点措置をすることで起爆剤になると思っている。

【金子委員】

「集まれ！子育て世代」と「人を呼べる新たなまつり」を募集テーマとするのであれば加点措置は必須だと思う。例えば、順位が低くとも満額採択となる場合も当然ある。また、加点しなくても、よい内容であれば順位は高いため、加点がなくてもよいと思ったが、募集をする際に加点すると謳うことで募集テーマに関連した事業が集まりやすいと思う。

【飯野会長】

これまでの意見をまとめると、加点措置をしたほうがよいとの意見が多い。令和2年度は、特定事業への加点措置を行うとしてよいか。

(よしの声)

具体的には配点の中のどこで加点をするかを決定したいと思う。それについて事務局の意見を求める。

【田中主事】

提案内容によって、募集テーマに 100 パーセント適合している事業や半分程度は適合している事業の違いがあると思う。採点票には、採択方針の適合判定の項目があるため、採択方針に適合した場合に固有の点数を加点するやり方、または、新しい採点項目としてテーマへの適合度を追加して 1 点から 5 点を採点する 2 つの方法が思いつく。加点方法について、分かりやすさも含めて協議してほしい。

【飯野会長】

募集テーマに 100 パーセント適合している事業と半分程度が適合する事業等の様々なパターンが考えられる。そのため、傾斜配分のように加点に差を出すとの考えが成り立つ場合もあると思う。加点措置は必要であるが、具体的にはどのような加点の仕方がよいかをもう少し考える必要がある。

【青木副会長】

特定の事業に対する加点措置について、次年度は次期委員が審査するため、どのように申し送るかが大切になってくる。そのため、具体的に決めておかなければ、次期委員を混乱させてしまう。判断は難しいが、例えば正副会長の事前協議において、具体的にどの事業を加点するかを決定し、正副会長案として地域協議会に諮る方法があると思う。

【飯野会長】

具体的にどこで加点をするかを決定することは難しい。自分の考えとしては、配点項目の必要性の点数を 2 倍や 3 倍にしてもよいと思っている。傾斜配点すれば、ある程度の差が出る。先ほど意見のあった事業内容によって加点される点数が変わるとしては分かりにくいように思う。そのため、共通審査基準の必要性に対して、傾斜配点を 2 倍とする方法が分かりやすいと思う。

【横川委員】

必要性を傾斜配点としても委員が低い点数を付けた場合、あまり意味がないことになる。ただ、募集テーマに関連した事業を一律で加点するのであればよいと思う。点数を傾斜配点しても、委員が加点を踏まえて点数をつけなければ何の意味もない。

【金子委員】

必要性の配点 5 点については変更せず、5 点満点で採点を行うが、最後に倍にするやり方かどうか。

【飯野会長】

必要性だけではなく、全部の点数を倍にするということか。

【金子委員】

必要性だけである。採点は 5 点満点で採点するが、点数を集計する際に、必要性の点数のみを倍にするということである。

【日向委員】

2 つの募集テーマに適合している事業を協議会委員で選別することは可能か。これまで何年も審査採択を行っているため、提案された事業がテーマに適合しているかは明らかに分かる。そのため、事前に協議会委員で募集テーマに適合する事業を選別し、加点してはどうか。

【飯野会長】

ヒアリング後に地域協議会でテーマに適合しているかを確認し、テーマに適合した事業と決定した場合、その事業に対して必要性を加点すればよいと思う。

【横川委員】

細かく審査方法を決定したとしても、それを審査するのは次期委員である。そのため、今期委員の想いが次期委員に繋がるかが問題である。1 番簡単な方法としては、募集テーマに適合した事業は、一律に 5 点を加点すれば次期委員も判断しやすい。

【飯野会長】

募集テーマに適合する事業を地域協議会で決定する必要がある。提案者がテーマに適合していると言っても、地域協議会で適合しないと判断することもあるため、募集テーマに適合しているかを判断する機会を設けたほうがよい。例えば、事業名等に子育て世代と書いてあっても、内容を見たら老人会の集まりということもある。そのため、ヒアリングを実施したうえで、判断する機会を設けたほうがよいと思う。

【横川委員】

しかし、事務局で内容を確認して受け付けている。だが、事務局ではどの世代が対象かまでは確認していないと思う。

【田中主事】

募集テーマに適合しているかは、地域協議会で決定してほしい。2 つの意見が出て

おり、募集テーマに適合する事業の判断方法と、適合している事業に対する加点内容である。まずは、募集テーマに適合する事業の判断方法を決定し、次に適合する事業の加点内容を決定してほしい。

【横川委員】

決定した方法を次期委員にきちんと説明しきれぬかが問題である。初年度から難しい判断をしなければならないというのも酷な気がする。

【田中主事】

加点措置を設けるテーマは、募集の段階で告知される。そのため、加点措置をする場合、どのように加点するかを決めておく必要がある。ただ、次期委員の審査を考慮するのであれば、令和2年度は加点措置をせず、採択方針にのみ反映した状況で、どの程度の提案が集まるか、また、実際の順位がどうなるかを見て次期委員が加点措置を検討することもできる。

【飯野会長】

次期委員のことだけを考えるのであれば、今検討していること自体が不要になってしまう。次期委員に全てやってほしいと丸投げすることはできない。自分たちも協議会委員になった時は、初年度から全てを理解できたわけではない。そのため、前任者がある程度は方向性を示していかなければ混乱を招いてしまうことになると思う。

【横川委員】

できることであれば、簡単に組み立てるようにしたほうがよいと思っている。簡単明瞭に分かる方法があればよい。だが、それがどんな方法なのかは難しい。

【横山委員】

次期委員に引き継ぐか、それとも任せてしまうかを考えるのであれば、また一から検討することを考えると、事務局から次期委員にきちんと説明してもらい、引き継がなければ時間も無駄になってしまう。ある程度下駄を履かせた状態でスタートしてもらった方が余計に迷走することはないと思う。そのため、始めから加点措置をする前提で、事務局から次期委員へ分かりやすく説明してもらえればよいと思う。また、高士区の現状や課題を理解してからでは、次年度のスタートが遅くなってしまうと思う。

【金子委員】

やり方に関しては、事務局から次期委員へ丁寧に説明すれば理解してもらえているため、現委員で決定すればよいと思う。加点措置に関しては、非常に悩まし

い。募集テーマに適合する事業の判断は、協議会委員で決定したほうがよいと思う。

【飯野会長】

例えば、全提案の中から募集テーマに適合する事業を選び出し、その事業の必要性の点数を倍にしてはどうか。ただし、公益性や参加性と同様に最初から傾斜配点で 2 倍とするか、集計の際に必要性のみを倍の点数として計算するかを決定したい。さらに必要性の傾斜配点を何倍とするのかも難しい。

【金子委員】

集計時に必要性を倍にするか、もしくは傾斜配点として 5 点を加点するかのどちらがよいかを協議してはどうか。

【飯野会長】

現在、高土区では、公益性と参加性のみを傾斜配点している。必要性についても同様のやり方で良いと思う。

【横川委員】

点数を倍にすることはよいが、それを令和 2 年度のみとするか、または今回と同様に新たなテーマが出てくることも想定し、継続的に実施するのかが問題である。

【飯野会長】

それは次期委員が判断することである。数年先の話をこの場で決定し、話を固めてしまう必要はないと思う。そのため、場合によっては令和 2 年度だけになるかもしれないし、継続していくかもしれない。令和 3 年度以降については、次期委員に判断してもらえばよいと思う。

募集テーマに適合する事業は協議会で判断することでよいか。

(よしの声)

【田中主事】

次に、テーマに適合する事業の加点方法を決定してほしい。

【飯野会長】

公益性や参加性と同様に、テーマに適合する事業の必要性の点数を倍にしてはどうかと考えている。

【横川委員】

簡単にするのであれば、テーマに適合した事業に対して 5 点が加点されるやり方が分かりやすいと思う。

【青木副会長】

先ほどから次期委員に現委員の意思が伝わるかを考えている。次年度は次期委員で進めていくことになるが、現委員が数年かけてきたテーマを引き継いでもらいたいとの意思を全て伝えることは無理があると思う。そのため、令和2年度のみの特例として、現委員の決定事項を順守しながら、必要性に対して5点を加点するやり方でよいと思う。これまでの審査採択でも、5点差があれば採択となっていた。要は採択されればよいわけである。加点された事業の補助金が倍になるわけではない。その後は、次期委員が検討するとしてよいと思う。

【飯野会長】

加点措置の方法について採決を取る。テーマに適合する事業の加点方法について、5点を加点する方法に賛成の委員は挙手願う。

(全員挙手)

【横山委員】

加点することには賛成であるが、今年度の結果を考えると5点の加点では厳しいように思う。

【金子委員】

例えば3点を付けた場合、採点3点プラス5点加点の8点となるため、さほど変わらない。

【横川委員】

しかし、テーマに適合する事業であれば高得点になると思う。

【飯野会長】

先ほど、優遇措置として共通審査基準とは別枠で加点することを決定した。加点される点数について協議する。

【田中主事】

例えば5点を加点した場合、全委員の採点を集計すると最高で480点となり、加点しない場合は最高で420点となる。最高得点で言えば60点の差が出る。また、1人あたり5点を加点すれば、共通審査基準の1項目に最高得点がついている状態と同じであり、かつ項目が増えている状態となるため、差は大きい。

【金子委員】

そう考えると、逆に10点を加点してしまうと大差がついてしまう。

【飯野会長】

5点加点でも全体で60点の差がある。

【小林委員】

自分たちはこれまで審査してきたため理解できるが、次期委員は実際に審査してみないと分からないと思う。各種団体の予算は、どこから出ているのかを知るところからのスタートだと思う。もし、どうしても必要な事業の点数が低くなった場合、どうなるのかとってしまう。

【飯野会長】

先ほどの事務局の説明にもあったように、テーマに適合する事業に対して、全員が5点を加点することになる。1人5点というと小さな数字に思えるが、12人全員が5点加点すれば60点になるため、差は大きくなると思う。逆に加点措置をしたにも関わらず、不採択となるようでは、提案内容自体に問題があることになる。事業名ではテーマに適合していても、内容が全く違う場合は適合する事業を検討する際に見極めればよいと思う。内容がはっきりとした提案であれば確実に60点は加算される。

では、加点は5点としてよいか。

(よしの声)

次に、資料2について協議を行う。不採択となる基準については資料記載のとおりである。これについて意見を求める。

(発言なし)

では、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に、評価の低い事業となる基準についても、令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に、採択事業の決定等について意見を求める。

(発言なし)

これについても令和元年度と同様としてよいか。

(よしの声)

次に、委員が提案者の場合の審査についてである。高土区の場合、様々な団体の代表や構成員になっている委員が提案する場合がある。これまでは、その委員の審査を制限しないとしてきた。ただし、審査にあたっては、提案団体に関係する委員は発言

を控えてきたと思う。これについて意見を求める。

(発言なし)

では、これまでと同様としてよいか。

(よしの声)

次に、採択事業の決定方法についてである。配分額を超過した場合、今年度は上位から審査し、下位の事業を減額もしくは不採択とした。これについて意見を求める。

(発言なし)

では、今年度と同様としてよいか。

(よしの声)

以上で、資料1と資料2の協議が終了した。他に意見等あるか。

(発言なし)

以上で、次第3議題「(1) 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について」を終了する。

次に、次第3議題「(2) 地域協議会だよりの配布方法について」に入る。事務局より説明を求める。

【田中主事】

- ・資料3、参考資料3、参考資料3（別紙）に基づき説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。先日、高士地区町内会長連絡協議会の考えを横川会長に確認した。高士区では、「地区だより たかし」を年10回発行している。現在は、1月と8月の発行はないが、次年度から年12回にしたいと考えている。「地区だより たかし」もあるため、地域協議会だよりを班回覧としなくとも、町内会長宛に届く広報上越の配布に間に合うようであれば全戸配布でも問題ないと話していた。それも踏まえて検討したいと思う。配布方法について意見を求める。

【横川委員】

配布された地域協議会会長会議の会議録を確認した。会長会議では、地域の見守りや地域協議会が認知されていないため、全戸配付が必要と訴えている地区もある。地域協議会の認知度を考慮すると、班回覧とした場合、目を通さずに次に回してしまう

ことがあるため、認知度を高めるためにも全戸配布がよいと思っている。

【日向委員】

自分たちの世代も回覧板を見ないうちに回されてしまうことが多々ある。回覧板を見ることができず、出たかったイベントに参加できないこともあるため、全戸配布がよいと思う。

【飯野会長】

他に意見はあるか。

(発言なし)

全戸配布の意見のみであったため、高士区では地域協議会だよりを全戸配布としてよいか。

(よしの声)

それでは、高士区地域協議会では全戸配布を継続することで決定した。

以上で、次第3 議題「(2) 地域協議会だよりの配布方法について」を終了する。

次に、次第4「その他」の「次回の開催日」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：2月20日（木） 午後6時30分から 高士地区公民館 中会議室
- ・ 内容：令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の確認について

次期委員への申し送り事項について

- ・ 会議の閉会を宣言

【青木副会長】

- ・ 閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。